

2級2次試験を受験される皆様へ

2月18日土曜日に行われるMIDI検定2級2次試験を受験される方は、下記の内容をお読みになり、受験日当日までに準備を行うようお願いいたします。

■環境の整備

2級2次試験を受験する際には、受験者の皆様で「課題提出」を行うための環境を整えていただく必要があります。

必要な環境は以下の通りです。

- ・次の機能を有するDAWソフトウェア、またはハードウェア
 - +SMFのFormat 1が書き出せること
 - +GML2システムオンのシステムエクスクルーシブが入力できること
 - +ノートメッセージが入力、編集できること
 - +プログラムチェンジが入力、編集できること
 - +コントロールチェンジが入力、編集できること
 - +ピッチベンドチェンジが入力、編集できること
 - ・オーディオデータを作成するための環境
 - +GMマップおよびGML2のドラムマップに存在する各種音色を演奏できるシンセサイザー音源（GM準拠でなくても、同様の音が出れば構いません）
 - +MIDIデータを演奏させた状態を録音またはバウンスし、サンプリングレート44.1kHz、16bit、ステレオのWAV形式ファイルを作成できる環境
 - ・提出用CDを作成する環境
 - +Windows7以上またはMacOS X以上の環境で読み取ることが可能なデータCDを書き込む環境（CD-Rに書き込み可能な内蔵または外付けディスクドライブ）
 - +盤面にプリントまたはマジック等で記載が可能なCD-R（データ用）
- 提出物を郵送するための梱包材など
- +CD-Rが破損しないようなケース、クッションなど

■課題提出に備えた学習について

受験案内に記載されているとおり、MIDI検定2級2次試験は「筆記試験」と「課題提出」の2つに分かれております。

まず、「課題提出」についてですが、2016年12月25日に発表された「練習曲」4曲のスコアならびにMP3を参照してください。

この「練習曲」は「課題提出」の際に「課題曲」となる楽曲の要素を取り入れた練習用の楽曲です。試験当日までにそれぞれの楽曲をDAW上で制作する練習を行ってください。

MIDIチャンネルおよびセットアップデータは、各スコアの3ページ目に記載されています。

MIDIデータのベロシティー値ですが、スコアに指定されているもの以外はスコアの強弱記号に従い、「ミュージッククリエイターハンドブック」p.79の表 3-2-15に記載されているベロシティー値で入力してください。

スコアに記載されている C.C.#1 = や P.B.= はコントロールチェンジやピッチベンドチェンジを入力して表現を加えることを意味しています。記載のルールについては「ミュージッククリエイターハンドブック」6章の5に、データの入力に関する参考例は6章の4に記載されていますので、そちらを参照して入力の練習を行ってください。MP3には入力されたデータを実際に音源で再生したものが収録されていますので、ニュアンスなどを確認するようにしてください。

作成したMIDIデータはSMFのFormat 1で書き出して、再度読み込み、きちんと書き出されているのかも確認しておくようにしてください。

MIDIデータを作成したら、それぞれのパートに任意の音源を割り当て、オーディオ化する練習を行ってください。

このオーディオ化ですが、作成したMIDIデータをGML2対応の音源で再生した状態に近いオーディオデータを作成していただきます。使用する音源はGML2準拠でなくても良いですが、ドラムがピアノで再生されているなどの音色違いや、オクターブが異なっている場合には減点対象となりますので、MP3を参考にして適確なオーディオデータを作成してください。

フォーマットは44.1kHz、16bit、ステレオのWAV形式です。

MIDIデータとオーディオデータが作成できたら、CD-Rに書き込む練習も行ってください。

書き込みフォーマットは「データCD」です。DVD-Rなどを使用しないように注意してください。

■筆記試験について

「筆記試験」に関しては、課題曲のスコアに関する設問が出されます。

任意の小節の、任意のノートのイベントリスト表記を記載する問題や、楽曲のテンポなどを問う問題が出されます。

実際に練習曲の制作を行いながら、イベントリストやスコアに記載されたノートの音名などを意識して準備を行ってください。

また、イベントリストについてはTPQN480で3級筆記試験など同様の記載方式で回答することになりますので、お使いのDAWがこれらのフォーマットと異なる場合には、変換して回答できるように準備しておいてください。

以上です。